

ピアカウンセリングについて

令和 2 年 11 月 9 日

作業部会でもお話しましたが、ピアカウンセリングについて、技法が確立されているとは言い難い状況と考えております。

**【狭義】**

- ・長期の入院患者さんへの心理的支援としてのかかわり
- ・当事者同士でカウンセリングをする？
- ・地域活動支援センターなどで、新規のメンバーの受け入れ対応などを任されて行う。

- ・職員・非常勤職員として採用されて当事者としてメンバーに関わり、助言などを行う

↑

このイメージを持たれるかたもいると思うが、これは「ピアスタッフ」と呼ばれ次元が違うと思う。

**【広義】**

- ・当事者同士で、障害について、生きづらさについて話をする場面
- ・SSTのような、閉ざされた空間で、メンバー同士で意見を言い合う。
- ・当事者をパネラーとしたシンポジウム
- ・当事者同士でカウンセリングをする意味では、自助会も含まれるのでは？

そのように考えたとき、ハーモニーでは、昨年度行った、「ハーモニミニ講座・就労シンポジウム」は、当事者のシンポジスト・障害者雇用で働いているメンバー5名を講師としてシンポジウムを行い、発表ののち、会場のメンバーと質問で交流した。広義で「ピア活動」と言ってもよいのではないか？

コロナウイルスで中止しているが、SSTのプログラムを、「SSTの技法を使ったピア活動」として位置付けていきたいと思っている。実際、日常生活での困りごとなどを、メンバー同士で話し合い、いそんな意見の中から、その人に合った、「感じ方・解決方法・対処法」

などを導き出す過程は、広義でピアカウンセリングといえると思う。

**【提案・市でできそうなこと】**

このように、広義でとらえた場合。

**【ヘルプマーク】**と合わせて**【障害者サポーター養成講座】**というのがあるが、この**【障害者サポーター】**興味を持つメンバーもいる。オレンジリングなどは、講習に行っているメンバーもいる。障害はあるが、人のために、他の障害者のためになりたいという需要を拾い上げて、**【障害者ピアサポーター養成講座】**と題して、ヘルプマークの理解と障害の理解を通じて、その能力に応じて貢献できれば、いいのではないか？  
方法は、ハンディキャップに応じて、わかりやすく丁寧に説明する。別々なテキストを用意する。などなど  
ピアならではの視点を盛り込めたら。。  
また、差別化が有効か？正しいか？は、議論が分かれるところですが、バンダナやサポートキーホルダーの色を変える、デザインを変える。